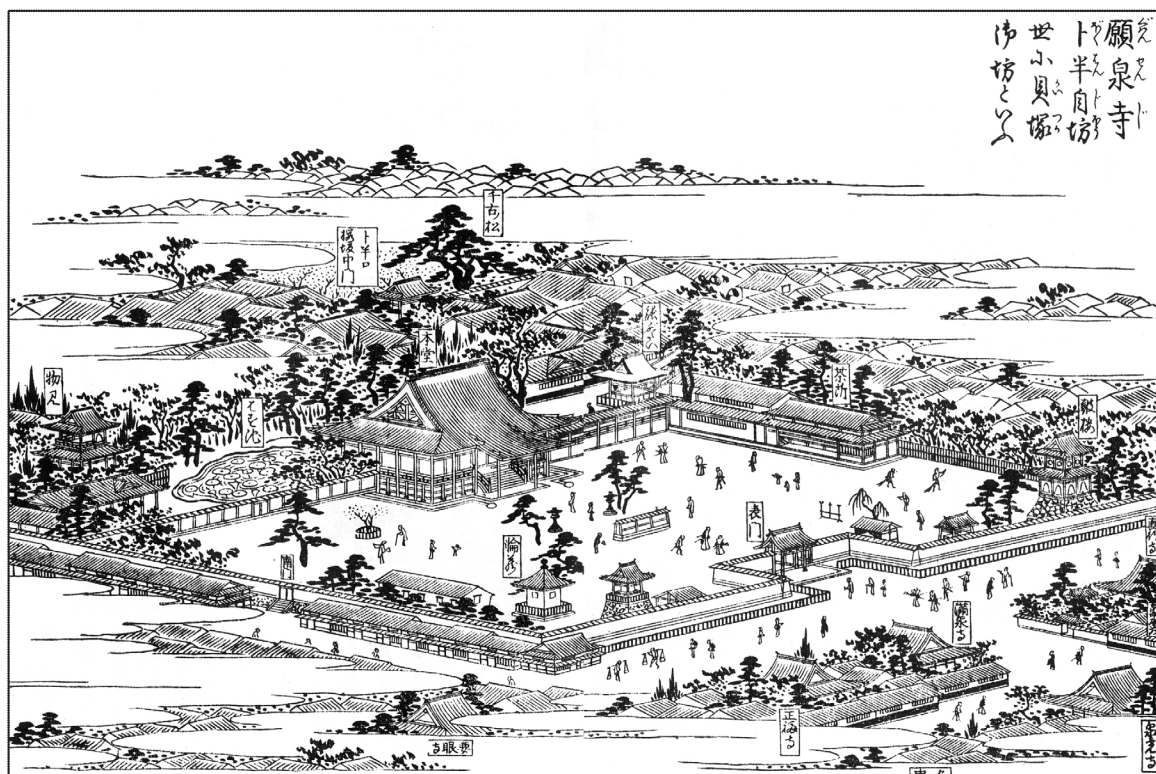


# 貝塚御坊願泉寺と寺内町



1700年代の終わりごろの願泉寺とその周辺（『和泉名所図会』より）

大阪湾を北西に望み、貝塚御坊願泉寺（かいづかごぼうがんせんじ）を中心に発達した寺内町「貝塚寺内」です。古くは麻生郷海塚村（あそごうかいづかむら）に属し、原集落は紀州街道沿いの低地にあったと推定されており、室町時代末期に寺内町として成立しました。近年の研究によると、1550（天文19）年、本願寺第10代証如（しょうにょ）が「麻生郷堀海塚」の地に方便法身尊像（ほうべんほっしんそんぞう）を下付し、本願寺の直轄寺院である“海塚坊（かいづかぼう）”（のちの願泉寺）を建設したのがはじまりと考えられています。1577（天正5）年には和泉国の一揆勢の拠点として織田信長の攻撃を受けましたが、その後再建され、1583（同11）年から2年間は浄土真宗の本山である本願寺がおかれしました。本願寺の移転にともない、願泉寺ト半（ぼくはん）家初代のト半斎了珍（ぼくはんさいりょうちん）が“海塚坊”の留守居（るすい）の地位を得ました。江戸時代にはト半家を領主とする諸役免許（しょやくめんきょ）の地「貝塚ト半寺内」として都市的発展を遂げ、さまざまな商工業が発達しました。

## ◆貝塚御坊願泉寺（浄土真宗本願寺派、<sup>きんりょうざん</sup>金涼山）の沿革

中世末期 貝塚寺内町の中心寺院“海塚坊”として成立

<sup>てんぶん</sup>天文19（1550）年 本願寺第10代証如<sup>しょうにょ</sup>による方便法身尊像<sup>ほうべんほっしんそんぞう</sup>の下付（御坊寺院化）

<sup>てんしょう</sup>天正5（1577）年 織田信長軍による貝塚攻撃

天正11（1583）年 本願寺第11代顕如<sup>けんにょ</sup>らが貝塚へ移住（～同13年）

天正13（1585）年 願泉寺ト半家初代のト半斎了珍が留守居役に

<sup>けいちょう</sup>慶長12（1607）年 西本願寺第12代准如<sup>じゆんにょ</sup>による「願泉寺」寺号の下付

慶長15（1610）年 徳川家康より「和泉国本願寺下貝塚ト半寺内」の黒印状発給（ト半家の寺内領主化）

<sup>かんえい</sup>寛永13（1636）年 ト半家4代了周<sup>りょうしゅう</sup>、江戸の東叡山寛永寺<sup>とうえいざんかんえいじ</sup>で剃髪得度<sup>ていはつとくど</sup>を受ける

↓

明治4（1871）年 明治政府による貝塚ト半寺内<sup>じょうち</sup>の上知

# 貝塚寺内周辺登録文化財地図



⑨竹本家住宅（西町）（江戸時代）

竹本家は当初の住人の職業は不明ですが、ト半家家来の屋敷であった可能性があります。



⑧尾食（おめし）家住宅  
（江戸時代）

尾食家は江戸時代に旅籠（はたご）屋や金融業を営み、明治時代には干鰯（ほしか）屋や木綿仲買などを営んでいました。



⑩吉村家住宅（江戸時代、明治）

吉村家は江戸時代に油屋や金融業を営んでおり、今も金融業を営んでいたころの面影が残っています。



⑪廣海（ひろみ）家住宅（江戸時代、大正）

廣海家は江戸時代に穀物や肥料を取り扱う廻船問屋を営み、一街区（いちがいく）を占める敷地を誇ります。



⑫名加（なか）家住宅（江戸時代、明治）

名加家は大正頃まで木櫛の卸問屋業を営んでいました。二棟の家屋が違和感なく統一されています。



⑬南川家住宅  
（昭和、明治初期）

南川家住宅は当地域の近代初頭から昭和初期までの住宅の様子が窺える貴重な建物といえます。



⑭寺田家住宅  
（昭和初期）

寺田家は大正時代に鉄工所を営み、寺田財閥の遺構の一つとして位置づけられます。





### ① 感田神社

(江戸時代、明治、昭和)

感田神社は伝統的な様式で建築された建造物群がまとまってあり、統一性のある境内の景観が形成されています。



### ② 並河(なみかわ)家住宅 (江戸時代)

並河家は代々ト半家の重臣で、近代には貝塚町や泉南郡役所の役人を務めており、式台が今も残っています。



### ③ 山田家住宅 (江戸時代)

山田家はもともと半家の家来で江戸時代からは古美術商を営んでいました。すり上げ大戸が特徴的です。



### ④ 竹本家住宅 (北町) (江戸時代)

竹本家は昭和まで木櫛製造業を営んでいました。屋敷は時代の異なる東西の棟に分かれています。



### ⑤ 利齋(りさい)家住宅 (江戸時代、昭和初期)

利齋家は江戸時代に薬種問屋を営んでおり、18世紀前半に遡る家です。



※戦前の貝塚町空中測量をもとにしているので、現在とは異なります。



### ⑦ 宇野家住宅

(江戸時代、大正)

宇野家は江戸時代以来、鋳物(いもの)業を営み、ト半家の狂言方も務めた旧家です。

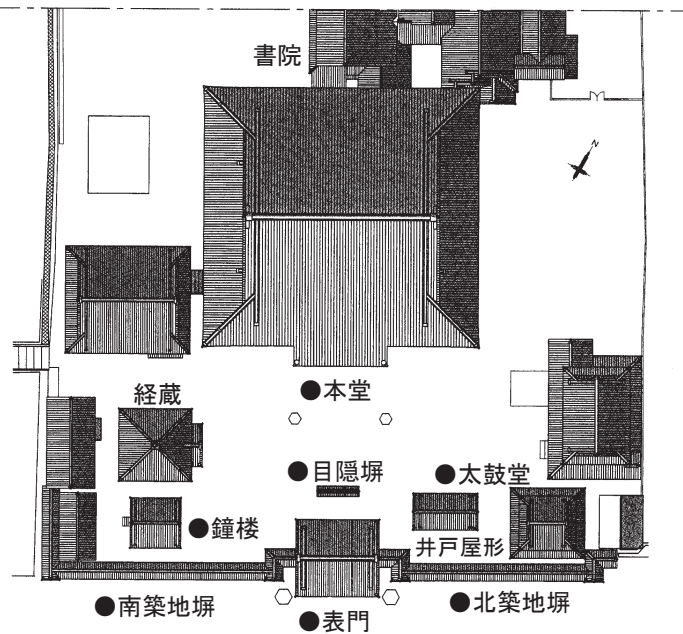


### ⑧ 岡本家住宅

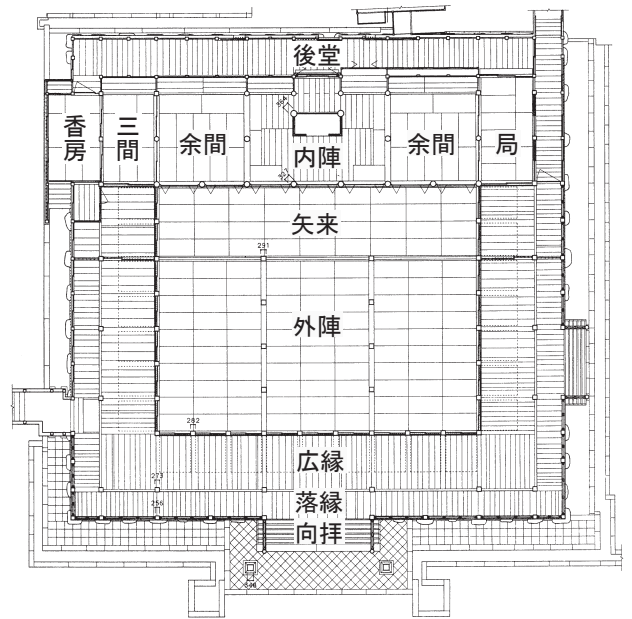
(江戸時代、明治)

岡本家は江戸時代に醤油製造業を営み、寺内町の年寄役も務めました。

◆願泉寺境内の建造物



境内配置図 [●印は重要文化財(附含む)]



本堂平面図

【重要文化財】※平成5年8月17日指定

- ① **本堂** 1棟 寛文3 (1663) 年  
 ・桁行 (幅) 27.8 m 梁間 (奥行) 27.0 m
- ② **太鼓堂** 1棟 享保4 (1719) 年  
 ・下層：花頭 (火灯) 窓 上層：格挟間形の窓 直径約 1.2 mの太鼓
- ③ **表門** 1棟 延宝年間 (1673～1681年)  
 ・大型四脚門 龍 (元禄3・1690年) ほかささまざまな動植物の彫刻
- ④ (附) **築地塀** 2棟 寛文11 (1671) 年  
 ・太鼓張り (内部が空洞) 形式の土塀 5本の定規筋
- ⑤ (附) **目隠塀** 1棟 江戸時代  
 ・幅3間 (約5.4 m) の土塀 類例が少ない
- ⑥ (附) **鐘楼** 1棟 元禄15 (1702) 年  
 ・前身鐘楼は昭和20 (1945) 年8月10日の貝塚空襲で焼失  
 →同23年、森稻荷神社 (神宮寺であった廃青松寺) の鐘楼を移築  
 ・銅鐘：大阪府指定文化財 貞応3 (1224) 年、大和国大福寺の铸造  
 →水間寺を経て、天正13 (1585) 年にト半斎が買得



内陣の彩色



表門の龍の彫刻



書院

【市指定文化財】※平成10年2月23日指定

- ① **経蔵** 1棟 貞享5 (1688) 年  
 ・土蔵造 倚大師と普成・普建童子像
- ② **書院** 1棟 江戸時代 18世紀前半  
 ・座敷2間 (龍間、花鳥間) 納戸2間 茶室
- ③ (附) **井戸屋形** 1棟 文政元 (1818) 年  
 ・井戸屋形と手水舎を兼ねる

かいづか文化財だよりテンプス別冊

貝塚市教育委員会発行

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoku@city.kaizuka.lg.jp

(2,000部作成、印刷単価20.79円)